

平成 29 年度

# 病虫害発生予察特殊報(第 3 号)

平成 30 年 3 月 29 日

神奈川県農業技術センター

病虫害名：ジャガイモクロバネキノコバエ

*Phyxia scabiei*

作物名：ヤマノイモ

## 1 発生経過

- (1)平成 29 年 11 月下旬に県内のヤマノイモ栽培ほ場で収穫したヤマノイモに、一部が陥没し黒褐変に変色した被害が見られた。
- (2)鏡検したところ、被害部にクロバネキノコバエ科と思われる幼虫が多数観察された。
- (3)被害部に寄生していた幼虫を羽化させ、成虫の同定を横浜植物防疫所に依頼した結果、ジャガイモクロバネキノコバエと同定された。
- (4)国内では、ジャガイモの害虫として記録されており、平成 15 年に北海道でユリとネギ、平成 21 年に千葉県でサツマイモ、平成 22 年に長野県でヒメユリの新害虫として特殊報が発表されている。ヤマノイモへの寄生は今回が初確認である。

## 2 形態および生態

### (1)形態

雄成虫の翅長は 1.2mm 程度、雌成虫は無翅で体長 2.2mm 内外。体は黒褐色、あごひげが 1 節からなるのが特徴である。

老熟幼虫は体長約 3.5mm で、頭部が黒色で硬化しているが、腹部は柔らかく半透明で脚がない。幼虫や蛹の形態はチビクロバネキノコバエとよく似ている。

### (2)生態

成虫は雄でもあまり飛翔せず、地表面をすばやく歩き回る。ヤマノイモを用いて 25℃で飼育したところ、成虫の寿命は最大 8 日、卵期間は 3～4 日、幼虫期間は 10 日前後、蛹期間は 2～3 日であった。

## 3 被害および寄主植物

### (1)被害

ヤマノイモではイモの表面が陥没しその部分が黒褐色に変色する。その被害部に幼虫が観察される。

実験室内では、ヤマノイモの他、ジャガイモ、サトイモに人為的に傷口を形成すると、その傷口からイモ内に幼虫が侵入し、食害することが観察された。

なお、サツマイモでは塊根の表面がやや陥没し、黒変した部位から内部に食入し、侵入孔より大きな空洞を生じその部分で切断すると空洞の周囲が褐変する。

また、ネギでは茎盤から 10cm 上方の葉鞘側部に径 1mm 程度の孔をあけて内部に食入するほか、侵入孔を中心に径 1cm 程度褐変するなどの報告がある。

### (2)寄主植物

これまで国内ではジャガイモの他、ユリ、ネギ、サツマイモで被害が認められており、今回ヤマノイモでも被害を確認した。

## 4 防除対策

- (1)現在のところ、ヤマノイモではジャガイモクロバネキノコバエを対象とする登録農薬

はない。

(2) ヤマノイモでの被害は主に傷口からの侵入が多いため、ネキリムシやコガネムシ類などの食害を防ぐなど、イモに傷を作らないようにする。

(3) 発生ほ場では被害残渣を取り除き、発生源を残さないようにする。

(写真)



図1 被害を受けたヤマノイモ



図2 被害を受けたヤマノイモ



図3 ジャガイモクロバネキノコバエ幼虫



図4 ジャガイモクロバネキノコバエ蛹



図5 ジャガイモクロバネキノコバエ  
成虫雄(左)と成虫雌(右)



図6 ジャガイモクロバネキノコバエ卵

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢 1617  
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>